

技術・家庭科（技術分野）の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 技術・家庭科（技術分野）では、「技術を分析し活用しながら、よりよい生活を営む人」を育みたいと考えている。私たちの身の回りには、ありとあらゆる技術があふれ、人々の生活は年々便利になっている。今後も技術は加速度的な進化を続け、私たちの生活を目まぐるしく変化させていこう。このような社会の中で「よりよい生活を営む人」とは、技術の価値や本質を見極め、自分の意思で取捨選択しながら、変化の大きく複雑な技術と賢く付き合っていける人ではないだろうか。
- 10 人は生きていく中で、日々進化する技術に出会う。しかし、単に優れた技術を自分の生活に取り入れるだけが賢い付き合い方ではない。例えば、常に新しい技術を活用し、便利な生活を求める人もいれば、自分なりのこだわりをもち、あえて最新の技術を使わない人もいる。その人が望んでいる、その人のライフスタイルに合った技術を取り入れていくことが、よりよい生活を送ることにつながるだろう。さらに、自分の生活だけでなく、周りの環境へも目を向け、社会にとってよりよい選択ができる人も素敵である。
- 15 また、技術を自分の生活や現代の社会に合わせて活用していくためには、技術を適切に分析する力が必要となる。私たちは新しい技術と出会ったとき、その構造や機能、価格など様々な視点から技術をとらえ、自分やその周りにどのような影響を与えるものであるかを見極めていく。その視点が豊かであれば、生活の実態や課題に応じて技術を取り入れたり、組み合わせたりして活用の幅を広げることができるだろう。
- 20 このように、主体的に技術とかかわり、よりよい生活や社会を創造しようとする人になることを願っている。

2 教科で願う学び

- 25 このような人を育てていくためには、日常生活や社会における技術のあり方を問い直し、複数の視点から技術を見つめ、最適な選択や方法を導き出すような学びが必要であると考えている。そして、複数の視点で技術を見つめるためには、単なる使い手として技術に触れる経験だけでなく、作り手としての構造的理解を伴う視点も欠かせないだろう。要するに、技術・家庭科（技術分野）が願う学びは、自らの生活をよりよくするために、また身近な生活や社会の諸問題を解決するために、その方策を構想・設計し、製作、評価へとつなげていく技術的に問題解決を図るサイクルの中で、「技術をあらゆる角度や側面から見つめ、試行錯誤を繰り返しながら、最適解を導き出すこと」である。
- 30 例えば、材料の接合を一つとっても、釘やネジ、接着剤のそれぞれの方法が、強度や見た目、価格などにどう影響するかを比較実験しながら検証し、つくりたい製品やそのコンセプトに合う最善の形を追求してほしい。説明書を見ながら指示通りに製作をするのではなく、よりよい方法を模索する時間を大切にしながら、最適解を導き出していくために試行錯誤する姿を期待している。
- 35 また、多様な視点で技術を見つめ、最適解を導き出していくためには、他者とのかかわり合いが大切になる。特に、製作したものを評価する段階で、一人の消費者に立ち帰り、互いの製品を評価し合うことで、自分にはなかった視点に気づくことができるだろう。ほかの場面でも、単なる個人作業にならないよう、設計の段階で考えたものを見せ合って吟味する活動や、つまづいた点などを共有する機会を充実させたい。
- 40 このように、技術をあらゆる角度や側面から見つめながら試行錯誤する学びを通して、技術を本質からとらえることができる人を育んでいきたい。